



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和4年1月20日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ トヤマガ ヲジ ショウ ブイカイ
団体名 富山学区自主防災会
所在地
連絡先
フリガナ
代表者 役職・氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	地域防災力の向上
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	新規 ・ <u>継続</u> 7回目 / 【H28年度から】
課題	※地域の実情と解決をはかりたい課題、事業実施の必要性について記載してください。 ●操山山系では、土砂災害警戒区域が多数指定されており、土砂くずれなど人命にかかわる災害が想定される ●避難所開設の実績が乏しく、地域での避難誘導・避難所自主運営のノウハウがほとんどない ●高齢化率は岡山市の平均を上回り、災害時に自力では行動できない要配慮者への支援体制が不可欠

事業の目的	※事業を実施する「目的」を記載してください。 ～ 逃げ遅れによる災害犠牲者を出さない ～ ・警戒レベル4「避難指示」で「危険な場所」から「全員」「直ちに」「立退き避難」することの周知 ・避難情報発令後の速やかな避難所開設 → 速やかに避難者受入れる ・全世帯向けに向けて素早く声かけ、誘導 ・要配慮者の事情に沿った適切な支援
事業の内容・感染防止対策の内容	※具体的に実施する活動内容を箇条書きで記載してください。 令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の中断で、多くの活動内容を先送りした。令和4年度は先送りされた活動内容について、進め方を見直し実効性を高める 洪水浸水想定が見直され、100年～150年に一度の大雨では、当学区の百間川沿いは浸水の危険がほとんどないこととなり、より発生可能性の高い土砂災害に重点を置く (1) 「とみやま防災だより」の定期的な全戸配布 ・住民の適切な防災行動を周知するために、A4カラー1枚両面のチラシを定期的（3ヶ月に1回、年4回）に全戸配布する ・チラシだけでは説明しきれないところは、学区電子町内会のホームページで補う ・テーマ案 ①洪水ハザードマップの改定（百間川沿いの浸水リスク低下） ②避難すべき危険な場所とは ③避難行動のタイミング など (2) 避難所開設手順の検討およびキット化 ・あらかじめ机上訓練などで避難所開設手順について学習した要員が、市派遣職員を補佐し、避難元の町内会から招集する開設支援要員の協力を得ながら、速やかに避難者を受け入れる手順・役割分担を検討する ・集まった要員が誰でも混乱なく分担して作業できるよう、手順書と必要となる備品類を整備する（避難所開設キット） ・【令和5年2月】避難所開設・避難者受入 実地訓練

(3) 単位町内会の声かけ・誘導體制のモデルづくり

- ・住民の適切な防災行動を促すための単位町内会の動きについて、モデル町内会を選定し、他町内会の参考となる声かけ・誘導體制モデルを作り上げる

(4) 個別避難計画のモデルづくり

- ・ケアマネージャーなど専門職の関与が不可欠なレベルの要配慮者について、モデルとなる要配慮者を選定し、他町内会の参考となる個別避難計画作成手順のモデルを作り上げる

(5) 防災緊急連絡網の拡充

- ・令和2年度に構築したLINEによる学区から単位町内会への防災緊急連絡網を拡充し、災害時に必要となる連絡先への緊急連絡が確実に伝わるようにする

避難所運営を支援する各種団体関係者

消防分団・排水ポンプ操作員など

- ・災害時に各種調整のために連絡を取り合う先について、連絡先一覧を整備する

岡山市及び中区災害対策本部など行政機関

医療機関・福祉介護施設など

※実施する感染防止対策の内容・方法など、具体的に記入してください。

【感染防止対策】

●会議

- ・無接触検温器に検温、チェックシートによる体調チェック
- ・出席者の名簿を記録
- ・多人数による会議を控え、20名以下となるよう会議方法を工夫

●イベント（防災訓練） 上記に加えて

- ・手洗い、うがい、アルコール消毒
- ・飛沫防止仕切りの設置
- ・フェイスシールド、衛生手袋、衛生キャップなどの着用

期待される成果・目標	※事業実施することで、変化すること、期待している成果、事業実施後にどこまで到達しておきたいか「目標」を記入してください。 雨季において、滞りなく ・住民に対して緊急連絡を発信し、適切なタイミングでの適切な行動を促す ・避難情報発令後は、素早く避難所を開設し、避難者を円滑に受け入れる ➡ 住民の命を守る 、 逃げ遅れによる災害犠牲者を出さない
企画などの工夫	※通常、日常的に実施している事業をそのまま提案された場合は、対象とならない可能性があります。区づくり推進事業の申請にあたって、何をどう変えたのか、どこに活動の目的や対象をしばったのかなど、企画にあたっての工夫をお書きください。 ●危険な場所から全員避難することとされている警戒レベル4「避難指示」の意味が、住民に充分浸透してないことから、自分勝手な判断や認識不足で逃げ遅れによる人的被害が想定される 自分勝手な判断や認識不足による逃げ遅れを防ぐために、警戒レベル4「避難指示」危険な場所から全員避難することを強力に推進する この実現のために、 ①土砂災害において、全員避難すべき対象世帯を特定する ②対象世帯について、あらかじめ避難先候補を決める ③対象世帯の要配慮者について、個別避難計画・支援体制を整える ④住民は、警戒レベル4「避難指示」で直ちに避難できる準備をする ⑤避難に時間を要する住民は、警戒レベル3「高齢者等避難」のうちに避難を完了する ことを、土砂災害警戒区域を有する単位町内会を主体として進める
協働する団体等	※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。 ・富山学区連合町内会 単位町内会との連携・調整に関する協働 ・富山学区安全・安心ネットワーク協議会 避難所運営に関する協働 ・富山コミュニティ協議会 災害時の富山コミュニティハウス活用に関する協働 (学区対策本部拠点、学区自主運営の指定避難所) ・富山小学校 避難所運営に関する協働 ・富山中学校 避難所運営に関する協働 ・富山公民館 地域担当職員との協働 避難所運営に関する協働 公民館発行の「とみやまだより」による広報 ・富山消防分団 防災訓練・火災・災害発生時の協力・支援を得る ・富山電子町内会 学区内への広報 ・岡山市役所 防災研修への講師派遣、防災活動の協力・支援を得る(危機管理室) 避難所運営に関する協働(職員派遣担当部局) 小学校・中学校の貯水槽の災害時運用に関する協働(水道局) ・富山学区社会福祉協議会 要配慮者対策での協力・支援を得る ・介護、福祉施設 要配慮者対策での協力・支援を得る

事業の 情報公開	※区づくり推進事業は、広く区民への情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。 ・「とみやま防災だより」の定期的全戸配布による防災に特化した周知 ・「とみやまだより」による学区全体へのPR ・電子町内会ホームページの活用 ・公共の広報機関を通して、富山学区での取り組みを広くPRする ・連合町内会町内会長会議での町内会長への連絡で意思統一を図る ・単位町内会による文書連絡
学区 地区 への 広がり	※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。
前 年 度 か ら の 見 直 し 拡 充 点	※継続事業で申請される場合は、前年度の事業の成果を踏まえ、今年度の事業の改善・拡充点を記載してください。また審査会での助言・コメント等について改善・拡充したこと、改善・拡充ができなかった場合は、改善・拡充ができなかった理由を記載してください。 ●民生委員の知見を活かした活動の実効性向上 令和3年度において、事業推進主体である富山学区自主防災会の構成員を、連合町内会役員との兼務中心の状態から見直し、防災活動への専任化、民生委員の参画により、活動の実効性向上を目指したが、新型コロナウイルス感染拡大による活動停滞で、その成果はあがっていない 令和4年度は、民生委員の知見を活かし、避難所開設・個別避難計画について、要配慮者への対応をしっかりと盛り込んでいく
次 年 度 以 降 の 予 定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ①次年度以後の活動計画 ・「単位町内会の声かけ・誘導體制モデル」「個別避難計画作成手順のモデル」の他町内会への展開 ・複数の避難所を同時に開設する避難所開設訓練の実施 ②資金の確保について ■次年度も区づくり推進事業を申請する予定 □（ ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策：
そ の 他 PR し たい 点	

事業スケジュール（企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容	
4月	・避難所開設 研修・机上訓練（2月の避難所開設訓練に向けて） ・声かけ誘導体制モデル町内会の選定 ・要配慮者個別避難計画モデルの選定	
5月	・自主防災会 運営委員会議	声かけ誘導体制モデルの検討 要配慮者個別避難計画モデル検討
6月	・「とみやま防災だより」の全戸配布 ・避難所開設 研修・机上訓練（2月の避難所開設訓練に向けて）	
7月	・自主防災会 運営委員会議	
8月	・避難所開設 研修・机上訓練（2月の避難所開設訓練に向けて）	
9月	・自主防災会 運営委員会議 ・「とみやま防災だより」の全戸配布	
10月	・避難所開設 研修・机上訓練（2月の避難所開設訓練に向けて）	
11月	・自主防災会 運営委員会議	
12月	・「とみやま防災だより」の全戸配布 ・避難所開設 研修・机上訓練（2月の避難所開設訓練に向けて）	↓
1月	・自主防災会 運営委員会議	声かけ誘導体制モデルの文書化 要配慮者個別避難計画モデル文書化
2月	・学区防災訓練（避難所開設訓練）	
3月	・自主防災会 運営委員会議 ・「とみやま防災だより」の全戸配布	↓

収支予算書

収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	60,000	100,000	支出小計(①)/2+支出小計(②)
実施団体負担金	20,000	60,000	支出小計(①)/2
参加者負担金			
協賛金			
寄附金、他収入			
収入合計	80,000	160,000	

支 出

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	20,000	40,000	事務用品(コピー用紙、インク、など)
②食糧費			
③印刷製本費	20,000	68,000	↓ 下欄に内訳記載
④燃料費			
⑤光熱水費		2,000	コミュニティハウスエアコン代
⑥通信運搬費		10,000	防災だより配布(助け合い隊に委託)
⑦広告料			(@100円×21町内会×4回)
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			③印刷製本費 内訳
⑪委託料			・定常的な資料印刷 20,000円
⑫工事請負費			・防災だより 6000部、A4カラー両面1枚
⑬報償費			12,000円×4回
⑭保険料			
⑮旅費			
小計(①)	40,000	120,000	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費	40,000	40,000	アルコール消毒薬、除菌シート、ビニール手袋、マスクなど
小計(②)	40,000	40,000	
支出合計(①+②)	80,000	160,000	

◆概算交付の可否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ・ <u>希望しない</u>
----------------	---------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。